

2018/01/21

「人の誤った考え」

「すると、ひとりの人がイエスのもとに来て言った。「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをしたらよいのでしょうか。」イエスは彼に言われた。「なぜ、良いことについて、わたしに尋ねるのですか。良い方は、ひとりだけです。もし、いのちにはいりたいと思うなら、戒めを守りなさい。」彼は「どの戒めですか。」と言った。そこで、イエスは言われた。「殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証をしてはならない。父と母を敬え。あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」この青年はイエスに言った。「そのようなことはみな、守っております。何がまだ欠けているのでしょうか。」イエスは、彼に言われた。「もし、あなたが完全になりたいなら、帰って、あなたの持ち物を売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むこととなります。そのうえで、わたしについて来なさい。」ところが、青年はこのことばを聞くと、悲しんで去って行った。この人は多くの財産を持っていたからである。」(マタイ 19:16-22)

■ 神の価値観と肉の価値観

青年は、イエス様に、「どんな良いことをすれば、天国に行けますか。」と尋ねました。この青年の質問にこそ、私達のものの考え方が凝縮されています。何をしたら祝福されるか、どうすれば成功するか、どうすれば幸せになれるかという、ハウトゥー的な考え方が、私達は大好きなのです。

この考え方の根底にあるのは、行いが人の価値を決定するという価値観です。宗教と名がつくものは、たいがい、良い行いを積み重ねれば天国に行けないと教えます。そして、良い行いには良い報いがあると考えれば、人が災いに遭うのは行いが悪いからということになります。そのため、私達は、災いが起きると、悪いことをしたから罰が当たったのだと考えてしまうのです。これは、私達を支配している人類共通の価値観です。

しかし、この価値観は、神の価値観とは異なります。このような行いといううわべで人を判断することを、聖書は「肉の価値観」と呼んでいます。

この青年の価値観は間違っただけで、イエス様は彼を否定することなく、「自分が思う通りに良い行いを実行してごらんください。」と答えました。イエス様は、たとえ相手が間違っている時でも、否定したり拒否したりなさいません。私達は、相手が間違っていると思うとつい否定してしまいがちですが、一度しっかりと受け止めてあげる必要があるのです。

イエス様の言葉に対して、青年は、「その戒めなら、自分は小さい頃から守っている」と思い、自分は神様から正しい人間と認められて、永遠のいのちに入れるだろうと安心しました。イエス様は、この瞬間を待っておられました。そして、一言つけ加えられたのです。それは、青年にとっては、とても難しい内容でした。なぜなら、彼は財産をたくさん持っていたから

です。

しかし、イエス様が本当にこの青年に教えようとしたことは、財産を売り払うことではありません。イエス様は、いったい何を教えたかったのでしょうか。

■イエス様が教えたかったこと

1. 行いで神に近づくことはできない

この世の宗教は、良い行いをすれば神に近づくことができ、祝福を得られると教えますが、イエス様は、そうではないことを教えるために、彼にはできないとわかっていることを言いました。それは、行いで神に近づくことはできないことを教えるためです。頑張ったらほめてもらえるというのは、この世の中の話で、神と人の関係は、そのようなものではないのです。

2. 人の価値はうわべになどない

人の価値は、何かができることにあるのではなく、その存在そのものにあると聖書は教えます。なぜなら、私達が存在することは神によっているからです。聖書は、私達の土台はイエス・キリストであり、神が私達を背負っておられるから、私達は生きることができると教えています。神とは、私達の存在の根底なのです。

旧約時代、神様はモーセに「私は在りて在るものである」とお答えになりました。すなわち、「私は存在だ」と言われたのです。そして、イエス様もまた、あなたは何者かと問われて、「エゴーエイミ」すなわち「私は存在だ」とお答えになっています。

「あなたはキリストのからだの一部である」「あなたの土台はキリストである」、「あなたは聖霊の宮である」「私はあなたと共にいる」等、聖書には様々な表現がありますが、その意味するところは、あなたの存在は神の存在であるということです。ですから、人は存在に価値があるのです。

パウロは、いつも自分を見て生きていました。ところが、自分が無になり、その存在が透明になった時、自分の中にイエス・キリストが生きておられることに気づきました。家が焼けてその土台だけが残るように、自分を飾って見栄え良く見せかけていたものがむなしくなった時、初めて、自分の存在は、自分ではなくイエス・キリストだと気づいたのです。人は砕かれて初めて、私が生きているのはイエス様がいたからだと気づき、本当の自分の価値に気づくのです。それは、自分の価値は自分の存在にあるということです。

自分を飾っているものがうまく機能している時、人はそのうわべしか見ることができず、うわべが自分の価値だと思っています。イエス様がこの青年に言った言葉には、その誤りを正し、あなたの価値はそんなところにあるのではないという思いが込められています。

3. すべての人は罪人であり、神の助けを必要とする

この青年は、自分の力では、神が求める行いができないことに気がつきました。それは、罪人であり、病人であるということです。

罪人であり病人である者がしなくてはいけないことは、良い行いをすることではなく、神のもとに行き、治療を受けることです。「あなたの重荷を背負ってあげるから、私のもとに来なさい」とイエス様は招いておられるのです。私達のすべきことは、良い行いを積むことではなく、医者助けを乞うことです。私達と神様との関係は、病人と医者との関係です。このことに気づかせるために、イエス様は、あえてできないことを言われたのです。

「しかし聖書は、逆に、すべての人を罪の下に閉じ込めました。それは約束が、イエス・キリストに対する信仰によって、信じる人々に与えられるためです。」(ガラテヤ 3:22)

神の戒めは、私達にはできないことを、あえて要求しています。それは、すべての人が罪人であることに気づくためです。救いとは、人の行いや努力によるものではなく、神を信じる信仰によって、あわれみを乞うことで得られるものだからです。

つまり、イエス様がこの青年に求めたことには、彼を罪の下に閉じ込める意図があったのです。人は、自分が罪人だと気づかない限り、神に助けを求めることはできません。だから聖書は、人には出来ないことをあえて教えて、罪人であることを自覚させようとします。私達が良い行いができないのは、構造的な問題なので、自分ではどうすることもできません。ただ、神のもとに行くしかないのです。このことに気がついて、神に助けを求めることこそ、イエス様が待ち望んでおられることなのです。

この青年は、自分は立派で、健康だと思っていました。しかし、神の目には罪人であり、病人です。私達人間は皆、罪人であり病人です。クリスチャンは、互いに「兄弟姉妹」と呼び合いますが、それは、自分達が特別なものであるとか特権があるとかいう意味ではなく、ただ神様の愛を必要とするものだけということです。私達は皆、等しく罪人であるがゆえに神の前に兄弟なのです。

イエス様の言葉には、そうしたことをこの青年に教えようとする意図があったのです。しかし、せっかく救いを求めてきた青年が、悲しんで帰ってしまったのを見て、弟子達は驚いてしまいました。そこでイエス様は次のような話をなさいました。

■金持ちが天国に入るのは難しいとは

「それから、イエスは弟子たちに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。金持ちが天の御国にはいるのはむずかしいことです。まことに、あなたがたにもう一度、告げます。金持ちが神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。」

(マタイ 19:23-24)

私達は、立派な人を見るとこういう人こそ救われるのだらうと思ひ、罪人を見るとこんな人は救われないだらうと思うものですが、イエス様は、どんなに立派な行いを積み上げようと、そのことで救われることはないのだと語っておられます。うわべで人を判断するのは間

違いだと教えておられるのです。さらに、金持ちが天の御国に入るのは難しい、つまり、私達はお金に気をつけなければならないと教えておられます。お金に支配されてしまうと、神を見ることができなくなってしまうからです。

「自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。」

(マタイ 6:20-21)

私達は、誰もがお金に心が向いてしまう弱さを持っています。しかし、お金に心が向き、お金に支配されればされるほど、心が神に向かなくなり、人を行いで見るようになり、自分の行いを見て自己卑下するようになり、人を裁くようになって、すべてが悪循環に陥ります。この世では、富を巡って戦争が起こり、殺人が怒り、様々な悪が生まれています。お金に支配されてしまうと、大切なものを見失ってしまうのです。

そこで聖書は、旧約時代から一貫して、献金することを教えています。十分の一を神に返すように教えられているのは、心がお金に支配されないためです。お金が気になる私達は、献金すると、心が神に向くものです。ですから、私達の心が神に向くように、献金を守りなさいと聖書は教えているのです。

ところで、なぜ人の心はお金に向かってしまうのでしょうか。それは、私達が生きることに、それだけ多くの不安を抱えていることを表しています。私達は、お金を持つことで不安を解消しようとしているのです。キルケゴールという哲学者は、人の不安の原因は3つあると言っており、聖書の言葉を用いると、次のようになります。

神に愛されていることが見えない不安（本質と疎外されている不安）
肉体の死に対する不安（有限性に対する不安）
罪責感（罪が罰せられるのではないかという不安）

哲学の世界で「本質と疎外されている不安」と呼ばれているものは、要するに、神に愛されていることがわからないために不安だということです。人間の本質は神です。自分の土台であるイエス・キリストがわからないために不安が生じているのです。つまり、人は神とそがされた関係にあるために不安なのです。

「不安」とは、「自分ではどうすることもできないこと」と定義されます。自分ではどうすることもできない不安から逃れるために、人はその不安を実体あるものに重ねます。その瞬間、不安は恐怖に変わります。人は、恐怖とは戦うことができるからです。恐怖と戦う手段の一つがお金です。お金を持つことで肉体の死に対する不安と戦い、お金を持って人から称賛されることで、人から褒められ、愛されない不安と戦っているわけです。

しかし、本当の不安の解決は、神様にしかできません。イエス様は、次のように言っておられます。

「弟子たちは、これを聞くと、たいへん驚いて言った。「それでは、だれが救われることができるのでしょうか。」イエスは彼らをじっと見て言われた。「それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます。」(マタイ 19:25-26)

「人にはできないけれど、神にはできる。だから、私のもとに来なさい。」これが、イエス様が教えたかったことの結論です。行いでは誰も救われません。けれど、神のあわれみにすがることができるのは、誰にでもできます。神と人との関わりは、「神様、憐れんでください」と、神のもとに来て助けを乞うこと、ただそれだけでいいのです。私達は皆病人であって、医者のもとに言って、「どうぞ助けてください」と言うだけで良いのです。

イエス様は、私達が愛されていないという不安を抱いているから、愛していることを示すために十字架に架かり、私達が肉体の死に対して不安を抱いているから、三日目によみがえって下さいました。私を信じるなら、あなたもそうなると示して下さいましたのです。このようにして、イエス様は、私達の不安を取り除くために、考え方を改めていこうとしておられます。イエス・キリストの十字架は私達の不安を取り除くためであり、こうしてイエス様に癒されることが救いなのです。

■幸福を手に入れるには

私達は、自分や人を、どのような価値観で見ているのでしょうか。

アメリカ心理学会会長のセリグマン博士は、通常の心理学が、人の苦しみを解き明かして傷をいやそうとするのに対して、苦しみというネガティブなものに目を向けるのではなく、良い部分を見つけて伸ばそうと考えました。このセリグマン博士のポジティブ心理学は、幸福を構成する3要素を、次のように定義しています。

笑顔 ・ 何かに深くかかわる人生 ・ 意味ある人生を送る

確かに、この3点は、私達に幸福感をもたらすものです。しかし、一つ問題があります。それは、これらを人間の力で得ることは不可能だということです。

私達の考え方の土台には、行いや努力によって人は幸せになれるという前提があります。しかし、これまで述べてきたように、行いによって良い報いを得ようとする考え方は、行いが悪ければ災いに遭うという意味になるので、私たちの不安を取り除くことはできないのです。ですから、何かをすれば幸せになれるという考え方は、結局私達を幸せにすることはできません。この問題の解決は、イエス様の十字架の愛を受け取るしかないのです。

私達は皆、自分が罪人であることを知っています。自分がどんなに欲深い人間で金に執着しているか、自分の欲望、妬んだり、腹を立てたり、怒ったり、比べたり……。そんないやな自分を知っているのです。このような自分を、神様はありのまま愛すると言われます。自分でも嫌っている自分を、なぜ神様は愛することができるのか、それは、あなたの土台がイエス・キリストだからです。あなたの価値はあなたのうわべにあるのではなく存在にある

ため、神様にとってあなたの罪は何の問題にもなりません。これが、無条件の愛です。

こんな罪人であっても責められない、ありのままの自分が受け入れられ、罪はすべて赦されるという、こんな安心は他にありません。この安心を得た時、人は何の憂いもない本当の笑顔になれるのです。

それだけではありません。自分を受け入れてくれる神の愛を知れば知るほど、感謝せずにはいられず、神様と深く関わりを持ちたいと願うようになります。イエス様の十字架の愛が、あなたを笑顔にし、何かに深く関わる人生の要素を生み出すのです。そして、神様と深く関わって生きようとする時、私達は自分の人生の意味を見出すようになるのです。

セリグマン博士が見出した3要素が、人を幸せにするというのはそのとおりです。ただ、それは、イエス様の十字架を通してしか、手に入れることはできません。本当の笑顔は努力によって手に入れるものではなく、神様から心の自由を受け取ることで得られるものなのです。

私達の土台におられる神様は、あなたの行いをさばく方ではなく、あなたをそのまま愛する神です。このことに気づく時、私達は、笑顔を取り戻し、神と深く関わる人生、意味ある人生を送ることができるようになります。あなたの行いや努力ではできないけれど、私には出来るから私のもとに来なさい、私はあなたを愛し受け入れるから——これこそ、イエス様が青年に気づいてほしいと願っておられたことなのです。